

朝日新聞記事…検審側「慎重の上にも慎重に審査」 “架空議決”を隠す作り話？

<新聞社の意図？>

審査員や説明者の発言などの審査会議の細かい記述をすることにより、「審査会議が開かれた？」の如く見せかけようとしたのではないか？

<記述に信憑性がない>…全てが作り話？

①「4日午前10時すぎ、検察審査員の市民が建物の一室に続々と入っていった…議事内容を再確認し、散会したのは…」

↑これって本当の話？

- ・「審査員(?)4日朝の集合」という情報をどこから得たのかな？
- ・続々と入室(?)したとする11人が審査員だと断定する根拠はどこにあるのかな？
- ・議決から20日も放っておいて、しかも発表日当日午前に、議決内容を確認するとは？←嘘っぽい

② 審査員(?)の発言「慎重の上にも慎重に審査した。証拠だけを吟味した、自信持った議決だ」

↑本当の審査員だったらこんなこと言うはずない。

- ・検察が証拠資料をもとに不起訴とした案件を、素人が、「その証拠だけを吟味して」起訴とした論拠が全くわからない。

③ 審査関係者(?)の発言「膨大な証拠資料を読み込んで議論を重ねた」←これって本当の話？

- ・素人の審査員が、一週間で「膨大な証拠資料を読み込んで議論を重ねた」などいえる状態になるのかな？

検審側「慎重の上にも慎重に審査」

慎重に審査



市民の選択 1

4日午前10時すぎの東京地裁。検察審査員の市民が建物の一室に続々と入っていった。議決内容を最終的に確認し、散会したのは昼ごろのことだった。

検察審査会事務局の職員2人が、A4サイズの「議決要旨」7枚を東京地裁の脇にある掲示板に張り出したのは、午後3時45分過ぎ。約80人の報道陣から「強制起訴」の声が何度もあがり、カメラのフラッシュが一齐に輝いた。民主党の小沢一郎元代表の強制起訴を決める審査にかかわった関係者は4日、こう語った。「慎重の上にも慎重に審査した。証拠だけを吟味した、自信持った議決だ」

審査会関係者によると、小沢氏に対する2度目の審査は、今年9月に入って本格化。

1度目の審査で「起訴相当」の議決をした11人全員が8月初めに入れ替わり、新たなメンバーが集まった。その後、法的なアドバイスなど審査を補助する弁護士が選ばれた。審査の過程で、「元秘書との共謀は認められない」と小沢氏を不起訴にした東京地検特捜部の検察官も審査会に呼び出された。

検察官は、「起訴にするためには、的確な証拠により有罪判決が得られる高度の見込みが必要だ」と法律の素人である審査員らを前に熱心に説明した。だが、それを聴く審査員たちの心中には別の思いがあった。議決要旨にも「検察官が説明した起訴基準に照らしても、検察官の判断は納得しがたい」との表現があった。11人の中から選ばれた「審査会長」が進行役になり、検察が集めた膨大な証拠資料を読み込んで議論を重ねた。9月14日、それぞれが意見を紙に書いて多数決をとったところ、11人中8人以上が「起訴すべきだ」と投票した。